

第1回

新宿区次世代育成協議会

平成27年7月7日（火）

新宿区子ども家庭部子ども家庭課

1 開会

○事務局

開会挨拶

2 区長挨拶

○吉住会長

皆様、おはようございます。

本日はお忙しい中、御参集賜りまして、まことにありがとうございます。

第六期の委員の委嘱を受けていただきまして、まことにありがとうございます。

平成17年度に設置したこの新宿区次世代育成協議会も、おかげさまで11年目となりました。第六期を迎えることとなり、第五期から引き続き委員をお受けいただく皆様、そして公募によって新たに参加をしていただくことになった皆様、本当に新しい視点での御意見をいただけるものとして、期待をさせていただいております。さらに、学識経験者の委員におかれましても、第五期に引き続き福富先生、増田先生、そして本日は残念ながら欠席でいらっしゃいますが、上瀬先生に委員をお引き受けいただきました。大変ありがたく、また心強く思っております。

さて、新宿区では、妊娠期から世帯形成期までのライフステージを見通した、切れ目のない総合的な次世代育成支援策を推進するために、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とする、新宿区次世代育成支援計画第三期のものを策定させていただきました。この計画では、今期も引き続き、子育てしやすいまちの実現を基本目標に掲げていますが、子育て中の方だけではなく、未来を築いていく誰もが、社会の一員として自分らしく生きられるまちを目指しています。

新宿区の特徴として、多様性ということが挙げられます。この多様性を尊重しながら、次世代育成支援を推進していくためには、日ごろから地域で活動している団体の方々や、事業者の方々との協働を欠かすことができません。この協議会には、まさにそういった方々に委員として御参加いただいております。ぜひ、皆様から活発に御意見をいただきたいと思っております。

これからの2年間、何とぞよろしく願いいたします。

○事務局

子ども家庭部職員紹介

資料確認

定足数確認

委員委嘱

3 第六期次世代育成協議会委員紹介（自己紹介）

○事務局

それでは、議事に入らせていただきます。新宿区次世代協議会条例第3条第2項では、この協議会の会長は区長ということになっております。

これからは、次第に沿って区長が進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

○吉住会長

それでは、これからの議事につきましては、私のほうで座長を務めさせていただきます。進行につきましては、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

お手元の次第に従いまして、進めてまいります。

まず、3、第六期新宿区次世代育成協議会委員紹介です。本日は第六期の初めての協議会でございますので、各委員の皆様、自己紹介をお願いいたします。お名前と所属をお話してください。

(名前と所属、簡単に本会議への抱負など自己紹介を行った)

○吉住会長

ありがとうございました。

人によりましては、昨日も別な会議で御出席いただきまして、大変お忙しい中、ありがとうございます。昼間の会議でございますので、それぞれの活動のフィールドがあると思いますので、時間のことは余りお気になさらず、重荷に思っただくよりは、堂々と出ていただいで、意見を言っただいたほうがありがたいと思いますので、今後ともそのような、御自分の日程をある程度優先した上で、出られる限りで出ていただければありがたいと思います。

4 副会長の選任

○吉住会長

それでは、これから次の議事に入ります。4、副会長の選任となります。新宿区次世代育成協議会条例第5条第2項に基づき、副会長互選により選任をいたします。皆様、いかがでしょうか。御推薦になりたい方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。

特に御推薦がないようでしたら、第五期の協議会でも副会長をお引き受けいただきまして、この協議会をよくご存じの福富護委員をお願いしたいと思いますが、御異議はございませんでしょうか。

(拍 手)

○吉住会長

ありがとうございます。それでは、異議なしと認め、福富委員を副会長と定めます。よろしくをお願いいたします。

それでは、席をお移りください。

(福富委員、移動)

5 議題（1）新宿区次世代育成協議会の概要と今後の進め方について 資料2

○吉住会長

それでは次に、次第5、議題に入らせていただきます。（1）新宿区次世代育成協議会の概要と今後の進め方についてです。第六期となり、初めての協議会となります。改めまして、この協議会について御説明をさせていただくものです。

それでは、事務局から御説明をいたします。

○事務局

まず、お手元に本日置かせていただいております計画の冊子、それから資料2というA4横のペーパーを御用意いただきたいと思います。まず、この次世代育成協議会の位置づけというあたりでございますけれども、資料2をごらんいただきたいと思います。左側の黄緑のところ、緑の太い線で囲んでおりますけれども、ここも11年目を迎えているという協議会となります。一番右のほうに、区の基本構想、基本計画、いわゆる地方自治法上の自治体の計画がまず、ありまして、そここのところに、こちらの御意見なりをフィードバックさせていただく形で、こうした関係の中でこの協議会も位置づけられているということになります。

冊子のほうをお手元に御用意いただきたいんですけれども、この計画書の7ページをお開きください。この計画の全体像のようなところを、ピンク系の図示をさせていただいており

ます。この中で、専門部会、それから計画策定部会を、それぞれ部会を構成させていただいて、議論をさせていただいて、つくり上げた計画ということになりますけれども、基本的には、平成17年度からの第一期の計画の基本理念を、一貫して踏襲しております。「子育てコミュニティタウン新宿」というところで、新宿の特性である多様性等々を入れ込んだ理念として「子育てコミュニティタウン新宿」というのがありまして、基本目標は、新宿、「子育てしやすいまち」の実現というところを基本目標にするというところでは、一貫して踏襲しているということになります。それにぶら下がってくる目標、この5つについても、第一期から基本的には大きく変えずに策定させていただいたというものになります。ここでまた、改めて御説明申し上げますが、そうは言いますが、ここ5年間あたりで、新たにクローズアップされてきた問題では、例えば、目標の①ということ、子どもの権利というところでは、先ごろ話題になった居所不明児童の問題、それから子どもの貧困、女性の貧困という問題等々があつて、この中でも議論をさせていただいたところです。それから、一番最後の社会の一員として自分らしくというところでは、以前はワーク・ライフ・バランスというところにどちらかという特化していた計画でしたけれども、同性婚の問題ですとか、若者の自立支援というところも議論をさせていただいて、計画をつくり上げさせていただきました。

その次のページ、8ページをごらんください。そうしたことを踏まえて、基本目標を数値目標化しているというところで、今回、これから31年度に向けては、ここまで就学前児童で55%、小学生保護者に至っては65%という高い満足度を、結果として得られるところを目指していこうという、志は高くというところで計画を策定させていただいております。ここで、大きく申し上げておきたいのは、今年度から、子ども・子育て支援新制度というのができまして、この4月から施行されているわけです。その中で、この冊子自体、次世代育成支援計画と子ども・子育て支援事業計画一体のものとしてつくっておりますけれども、従来の計画書にこの新制度があつたことによって、従来の計画書に加えた部分というのがページで申し上げますと、99ページからの部分に子ども・子育て支援制度の概要というところ、これが従来の新宿区の次世代計画にはなかつた部分の記載になります。ここはつらつらめくつていただくと、ずっと図表とかありまして、115ページから、ここが新制度の大きな特徴として、個々の保育園、幼稚園、子ども園なりの施設の整備目標を、ここに書かれているのは定員の数なんですけれども、こういう数を具体的に地区ごとに落とし込んでいくという、たまたまが計画の中でできました。この計画のこの数字は、状況によって随時見直していかなければいけませんし、これに応じて、新しく保育園、子ども園なりができたときは、その都度、

関係者の方の御意見を聞くというつくりになっております。

当初、子ども・子育て会議という、そういう役割を担う機関が法律で定められているわけですが、次世代協議会がその役割を担うというところで、計画策定をするところまではこの中でやらせていただいておりますが、実際にこのように数値目標なりの計画ができてきて、今後まっさら事務的、実務的、さらに専門的にこういった数字の見直し等々をやっていくに当たりましては、やはり次世代の協議会、大きく次世代育成を語る部分ではなくて、より専門的な会議体がやはり必要だろうということで、ことしの6月に、子ども・子育て会議というのを、この会議体とは全く別個につくらせていただいたというところがございます。

したがって、この115ページ以降の新たに計画に加わったこの部分についての議論というのは、子ども・子育て会議で行うということに今年度以降はなりません。ですので、むしろ次世代のこの協議会は、従来どおり、従来役割をそのまま踏襲して、発展的に継承して、今後も引き続き、次世代協議会を運営していただきたいということで、考えているところでございますので、より広い議論を、これだけのメンバーが集まるというのも非常に貴重な会議体だと思っておりますので、今後とも、そういった方向性でよろしくお願ひしたいと思います。

そういったことで、次の議題に引き継ぎますけれども、そういったことを比較的、区の政策的な部分より広い視点での部分で、次世代育成支援計画をこれから語っていただく機会もふえるかと思っておりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

○吉住会長

説明は終わりました。

それでは、(1)の新宿区次世代育成協議会の概要と今後の進め方について、委員の皆様のお質問などをいただきたいと思ひます。質問のある方は、挙手をお願ひいたします。なお、恐縮ですが、御発言の際はお名前をお願ひいたします。

それでは、後ほど、フリートークの時間もござひますので、この場におきましては、次の議題に移らせていただきたいと思ひます。

5 議題(2) 新宿区総合戦略の策定に係る意見について 資料3

○吉住会長

(2) 新宿区総合戦略の策定に係る意見について、です。国では、人口減少克服と、地方創生を目的とした、まち・ひと・しごと地方創生に取り組んでおり、全ての地方公共団体に対して、地方人口ビジョンと地方版総合戦略の策定を要請しています。区としましては、将

来の人口動向を見据え、持続的に発展を続ける新しい新宿のまちづくりに向けて、新宿区総合戦略を策定することといたしました。総合戦略では、子育てしやすいまちとして、選ばれるための都市づくりや、心豊かに自分らしく生きることができる地域社会づくり、高度防災都市化と安全・安心の強化など、次の世代が夢と希望を持てる社会づくりを目指しています。このため、策定に当たって、関係団体など、さまざまな分野の方々から幅広く意見を伺うことが重要であることから、本協議会にて御意見を伺わせていただくものでございます。

それでは、詳しい内容につきまして、新宿区総合戦略の策定担当である、総合政策部企画政策課長から御説明をいたします。

○事務局

皆さん、おはようございます。ただいま御紹介がございましたけれども、新宿区の総合政策部企画政策課長の平井でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、今、説明ありましたが、新宿区総合戦略の策定に係る意見紹介ということで、こちらのほうにまいりました。きょうは、私のほかに、総合政策部企画政策課の担当の土谷主査、2人で同席させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

初めに、きょうは資料がたくさんございますので、まず、そちらの確認からさせていただきたいと思います。この水色の封筒、こちらをごらんいただきたいと思います。右上に資料3と振ってございますが、そちらを出していただきますと、まず一番頭に「新宿区次世代育成協議会委員各位」と「新宿区総合戦略策定に係る意見について」という通知がございます。それで、今回、意見をお伺いいたしますのは、この委員の中でも学識経験者の方、それから公募区民の方、それから各団体の代表の方にお聞きするというので、区の関係者の方、それから関係機関の方につきましては、また別途、いろいろな場面で御協力いただきたいと思っております。つきましては、関係機関の方、区の関係者の方には、この通知の上に丸写しというのがございますので、御了解いただきたいと思っております。そのほかの方々につきましては、こちらの通知、公印が押してあると思っておりますけれども、こちらをもって皆様方に意見をお伺いするというものでございますので、よろしくお願いいたします。

資料につきましては、まずこの通知、それから、今回この場だけでは意見がお伺いし切れないと思っておりますので、調査票というのをおつけしております。それから返信用封筒、こちらも切手を張ったものがおつけしていると思っておりますので、御確認をお願いいたします。

次に、参考資料がございます。参考資料1ということで、各都道府県知事殿ということで、これは国の通知ですけれども、それが1部。それから、参考資料2ということで、水色のも

のになりますけれども、まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」というものが1部、それから、横になります、資料3、地方人口ビジョン・地方版総合戦略の策定に当たっての参考資料というものが1部、次に、資料4、これも横のカラーのものになります。1枚ぺらです。新宿区人口ビジョン・総合戦略【イメージ図】というものがあります。それから次に、参考資料5、これも横になります、「新宿区総合計画」と「新宿区総合戦略」の関係。それから、参考資料6ということで、平成27年度区政の基本方針説明（要旨）。それから、参考資料7、人口・世帯からみる新宿区の特徴。最後に、新宿区基本構想、新宿区総合計画概要版冊子がおつけしてございます。御確認のほう、よろしく願いいたします。

それでは、早速説明に入らせていただきます。

皆さん、気になったと思いますけれども、昨年、日本創成会議というところが、民間の機関ですけれども、このままでいくと、日本が人口減少で消滅可能性都市が出てくる。23区なんかでいうと、豊島区なんかがそういったものに該当されていましてけれども、このままいくと地方も衰退してしまうという危機的な状況にあるということが提示されました。そういったことを受けまして、国のほうでは、こちらの通知文にございますように、先ほど区長からもお話ありましたが、人口減少克服と地方創生を目的とした、まち・ひと・しごと地方創生に取り組んでいるというところでございます。そして、このまち・ひと・しごと地方創生につきましては、国と地方が一体となって取り組む必要があるということから、国は長期人口ビジョン、それからまち・ひと・しごと総合戦略を策定するとともに、全ての地方公共団体に対して、人口の現状と将来の姿を示した、地方人口ビジョン、それから今後5か年の目標や施策をまとめた、地方版総合戦略を策定するように要請しているというところでございます。新宿区では、総合計画、それから本年度策定しております、第三次実行計画との整合性を図りながら、新宿区総合戦略を策定するということといたしました。つきましては、皆様方から、新宿区総合戦略に関する御意見をいただきますよう御協力を申し上げるところでございます。

それで、この記書きにございますように、なぜこの場で皆様方に御意見をお伺いするのかということなんですけれども、この地方版の総合戦略、これは新宿区総合戦略ですけれども、この策定に当たりましては、国では産業界ですとか、行政機関、それから教育機関、金融機関、労働団体、メディア、産官学金労言と言っていますけれども、そういった方々から、幅広く意見を聞くことが重要であるということとなっております。このため、新宿区では、国のほうでは別途この計画をつくるに当たって、会議体を設置したほうが良いというふうと言

っているんですけども、新宿区の場合、皆様方きょう集まっていたらいる会議体、そのほか、幾つか同じような会議体がいっぱいございます。また、新しく会議体を設置することにつきましては、屋上屋を重ねることになりますので、既存のこういった会議体を活用させていただいて、皆様からの意見を広くいただくというものでございます。

今回は、こちらの次世代育成協議会のほかに、産業振興会議というところからも御意見をいただいているというところでございます。よろしくお願ひいたします。

それでは少し、この国が定めている、まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」について説明をさせていただきます。参考資料2の、水色のパンフレットをごらんください。

まず、1ページ目、表紙の裏になりますけれども、まち・ひと・しごと創生というのがございます。まち・ひと・しごと創生が目指すものというのがございまして、既に日本は2008年から人口減少社会に突入しております。そして、人口減少による消費、経済力の低下は、これは日本の経済社会に対して大きな負担となる。また、地方が成り立たなくなってしまう、地域コミュニティーが衰退してしまう、というような危機的状況にあるということなんです。そこで、国は人口減少に歯どめをかけまして、2060年に1億人程度の人口を確保するというところで、このまち・ひと・しごと創生というのは、人口克服と地方創生を合わせて行うことによりまして、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指すというものでございます。

その下に人口ピラミッドの変化ですとか、我が国の人口の推移と長期的な見通しというのがございます。人口ピラミッドで見ますと、左側2010年実績というものがございましてけれども、団塊世代、団塊ジュニアということで、ちょうど働き盛りのところが一番多くなっていますけれども、2040年、今、2015年ですから、25年後になりますと、この団塊ジュニアの世代がそのまま持ち上がって、高齢層が多くなってしまうという状況にあります。それから、我が国の人口の推移と長期的な見通し、これを見ていただきますと、2008年、1億2,808万人、おおむねピークとありますけれども、このままいくと、この点線のところ、徐々に下がっていきまして、2060年には8,674万人、2110年には4,286万人と、ほとんどいなくなってしまうという状況になってしまいます。国はこれを赤線のところまで持ち上げて、何とか人口を維持していこうという施策を、今、一生懸命打っているところでございます。

そして、この下にあります、(2)なぜ、まち・ひと・しごと創生かということなんですけれども、先ほども申し上げましたけれども、人口減少問題、これは地域にとって、状況、

原因は異なるんですけれども、大きな問題になっています。特に、今言われているのが、大都市における超低出生率、地方における都市への人口流出、これが加わりまして、大きな人口減少に加わっている。つまり、地方の若者たちがどんどん東京に来てしまう。東京一極集中ということで、東京に流れていく。特に大都市、東京は出生率が低いということで、このままいくと、どんどん人口が減ってきてしまうんじゃないかということなんです。そこで、地方特性に応じた処方箋が必要ということとなります。

次の2ページにいきますけれども、国は（3）地方への多様な支援と「切れ目」のない施策の展開と書いてあります。国は、先ほど申し上げました、これに対して長期ビジョン、どのように人口維持、あるいはふやしていくか。2060年に1億人程度の人口を確保する中長期展望、それから総合戦略、それをやるための戦略、こういったものを行ったらいいか。2015年から2019年まで5か年の政策目標・施策、こういった計画を立てています。そして、これは国と地方が一体となってやらなくてはいけないということで、地方のほうも人口ビジョン、これは各地方公共団体の人口動向、将来人口推計の分析や、中長期の将来展望、これを示したものの、そして、それを達成するためにこういった戦略を立てていけばいいかというものをつくっているというところでございます。

それでは、次の3ページをお開きください。こちらは国の長期ビジョン・総合戦略でございますけれども、特に下のほう、総合戦略でございますが、絵がございます。まず、国のほうは、この絵が、ぐるぐる回っている絵がありますけれども、「しごと」「ひと」の好循環、それを支える「まち」の活性化とあります。まずは、地方に仕事をつくりましょう。雇用の質、量の確保・向上しましょう。それによって人を呼び込んで、有用な人材確保・育成・結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援をしましょう。それによってまちを活性化、再生しましょうという大きな流れの循環をつくり出したいということで、取り組んでいるというところでございます。そして、どうやったらいいのかということで、次から基本目標4つ立てまして、国が取り組んでいるわけでございますけれども、4ページ目、上に基本目標①地方における安定した雇用を創出するというのがございます。そして、基本目標としては、地方において若者向けの雇用をつくる。2020年までの5年間で30万人。若い世代における正規雇用労働者の割合の向上、女性の就業率向上、こういった基本目標を立てて施策に取り組んでいるというところです。

もう1つ目、2つ目、次の5ページになります。今の裏になります。基本目標②地方への新しいひとの流れをつくるということで、下のほうに基本目標があります。現状で年間10万

人を超える東京圏への人口流出に歯どめをかけて、東京圏と地方の人口の転出入を均衡させるというものがあります。

それから、次のページにいて、基本目標③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるというところで、基本目標、下のほうにございますけれども、若い世代が安心して、結婚・妊娠・子育てをできるようにする。第1子出産前後の女性の継続就業率の向上ですとか、あるいは結婚希望実績指標の向上。夫婦子ども数予定実績指標の向上、こういったものが目標に上げられて施策に取り組んでいるというところがございます。

それから、その次のページ、最後になりますけれども、基本目標④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携するというのがあります。これはいろいろ地方によって状況が違います。東京も状況が違ふんですけれども、目標としては、地方は今、特に過疎化しております。限界集落なんかもあります。そこで、今のまま維持できないということで、コンパクトシティというのを皆さん聞いたことがあるかもしれませんが、例えば駅周辺、あるいは中心地に全て集めるというような、拠点づくり、それから、地方間同士で連携して取り組みましょうという地域連携、そういったものを目標に掲げながら取り組んでいるというものでございます。

こういった今、ざっと御紹介しましたけれども、国は、まち・ひと・しごと創生ということで、長期ビジョン、総合戦略を立てて取り組んでいくというところがございます。

そこで、新宿区はどうするのかということですが、参考資料3、こちらをごらんください。地方人口ビジョン・地方版総合戦略の策定に当たっての参考資料というのがございます。開いていただきますと、表紙の裏のところに、国と地方における人口ビジョン・総合戦略の構成（イメージ）というのがあります。上のほうが国と書いてあります。下のほうに都道府県・市町村となっています。国は先ほど申し上げましたように、中長期展望を上げて、基本目標、これを地方における安定した雇用を創出する。それから、地方へ新しいひとの流れをつくる。そして、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。最後に、時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する、こういった目標を掲げまして、右側のほうに政策パッケージとございますけれども、いろんな政策をこれから打っていくというところがございます。

翻って、都道府県・市町村、この下にありますように、国のこういった基本目標を勘案しながら、目標を立てて具体的な施策をつくってくださいというふうにされております。こういったものを参考にしながら、新宿区のほうは、参考資料4、こちらの1枚ぺらをごらんく

ださい。こういった新宿区の人口ビジョン、総合戦略のイメージ図でございますけれども、中長期展望と、基本目標5つの柱で、基本目標を立てさせていただいているところでございます。こちらにつきましては、この基本目標は、この国の基本目標を勘案するとともに、それから吉住区政の5つの基本政策、これを入れながら、こういった5つの基本目標を立てております。

1つ目が、東京は日本をリードする、それから新宿は東京をリードするというので、まず、賑わい都市・新宿を創造していきましょう。そして、2つ目、そうはいつでも、東京ひとり勝ち、それから新宿ひとり勝ちでは困りますので、やはり地方とともに発展していかなくちゃいけないということで、地方と連携して、ともに発展していきましょう。そして、3つ目、これはやはり東京でも同じことでございます。子育てしやすいまちとして選ばれる都市をつくりましょう。それから、心豊かに自分らしく生きることができる地域社会の実現。高齢者の方が住みなれた地域でいつまでも住んでいられる、障害者の方も地域で社会参加できるようなコミュニティをつくっていきましょう。そして、最後に、何より重要なのは、防災・防犯。高度防災都市化と安全・安心の強化、ということで、この5つの目標を立てて、新宿区の総合戦略をつくっていきましょうということでございます。

それから、人口ビジョンにつきましては、中長期展望というのがございます。これはⅠの人口現状分析、それからⅡの人口の将来展望というのがございますけれども、実は、新宿区は自治創造研究所というシンクタンクを独自に持っているんです。以前からこの人口動態につきましては、推計なんかもしております。きょうも参考資料をつけさせていただいておりますので、時間があれば、後ほど御紹介をしたいと思います。

そこで、新宿区の場合は2030年までは中位推計で、ある程度は人口が伸びていくだろう。ただし、高齢化が進んでいくというような課題もございますし、単身化が進んでいく、単身高齢者がふえる、あるいは未婚率もどんどん上昇していく、そういった心配なんかもございます。そういったようなことに対して、どうやって対処していくかというような人口ビジョンを立てまして、それに対してこの基本目標を立てて、具体的な施策を立てていこうというところでございます。

それから、これはもともと、先ほど資料2の水色のところで、まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」。これは、国はもともとは東京一極集中是正を解消しようというような趣旨で始めたんですけれども、ではなぜ東京や新宿区でもこういったビジョンをつくるのかということなんですけれども、やはり東京も新宿区も地方なんです。地方の

1つとして、地方としての東京、新宿ということで、こういったビジョンをつくる、総合戦略をつくる。それから日本を牽引していく東京、それから新宿区の役割、そういったものを示していかなくてはいけない。特に出生率の向上というのは、やはり東京、新宿区が上げていかなければ、全国的に衰退してしまうということもございますので、そういった視点から、こういった計画をつくる。それから、先ほど申し上げました、東京ひとり勝ち、新宿ひとり勝ちではなくて、地方と連携しながら、お互いにウイン・ウインの関係を築きながら発展していきましょうということで、地方と連携してともに取り組んでいきましょうという視点。それから、若者の雇用ですとか、それから、子ども・子育て、それと高齢者対策、障害者の方々へのケア、そういったものは当然必要となります。そういった視点から、基本目標を立てまして、この新宿区の総合戦略を策定していくというところでございます。

今回、意見をお聞きするのは、この次世代育成協議会につきましては、次世代の施策というものが中心なんですけれども、皆さん恐れ入りますけれども、幅を少し広く持っていていただきまして、高齢者施策ですとか防犯・防災ですとか、あるいは雇用の問題ですとか、地方との連携。これは将来的には、実はみんな子どもたちが全て担っていくことになりますので、そういった視点からもぜひ御意見をいただければと思います。

そして本日、御意見なんかもいただくんですけれども、なかなかきょう時間もございませんので、ちょっとお手数をおかけしますが、皆様のお手元にこういった調査票が入っていると思います。こちらをごらんください。こちらの調査票につきましては、皆様方の御意見をなるべく幅広く細かく聞きたいということで、御用意させていただいたものでございます。こちらの四角で囲んでいる趣旨のところは、先ほど申し上げたとおりでございまして、2番の調査内容につきましては、新宿区総合戦略で、今申し上げました、5つの基本目標を掲げて、今後5年間の施策の基本的方向、具体的な施策事業を取りまとめていきますということで、この5つの目標ごとに、目標を達成するための視点、それから重点的に取り組むべき施策、事業についてお伺いする。大きなところで、大きな考え方のところをお聞きするというものでございます。回答方法につきましては、調査票に御回答いただきまして、返信用封筒で今月の31日までに御回答いただくようお願いいたします。

それでは、中身を見ていきたいと思っております。お開きいただきまして、表紙の裏です。1枚目の裏でございまして、こちらは、先ほど御紹介いたしました、基本目標1から5までが記載されている、あるいは具体的な施策、こんなものがあるでしょうということで記載させていただいております。具体的な施策につきましては、ただいま区の総合計画、それか

ら実行計画のほうに記載させていただいております。あるいは、区のほうで今取り組んでおります施策について、事例として挙げさせていただいているというところでございます。

それから、具体的に調査票なんですけれども、こういった形で御回答いただくかということなんですが、その次のページです。まずは基本目標1、賑わい都市・新宿を創造する。分野は、都市基盤、整備ですとか、産業振興、観光、文化創造とあります。それぞれ政策分野ごとにお尋ねするということです。例えば、このページでは、区の取り組み状況、区では現在この点線のところなんです。新宿区のイメージを代表する新宿駅周辺地域の都市基盤整備として、東西自由通路や駅前広場の整備による回遊性の向上や、魅力的で歩いて楽しいまちづくり、中井駅の南北自由通路による良質な歩行空間の創出に取り組んでおります。また、ユニバーサルデザインや景観まちづくりの推進による快適な都市空間づくり、道路のバリアフリー化を推進していますということで、まずは、基本目標1、賑わい都市・新宿を創造するための都市基盤について、どのような視点が必要かと思いませんかということ、皆様方からの多角的な視点で御回答いただければと思います。

それから、その下の設問です。基本目標1、賑わい都市・新宿を創造するための都市基盤について、重点的に取り組むべき施策・事業は何だと思いませんか。ということにつきましても、今後、次世代を担っていく子どもたちの視点からもいろいろと御回答いただければと思います。

次、同じ基本目標1なんですけれども、今度は、産業振興、観光、文化創造についてお尋ねしますということで、同じように設問が、こういった視点が必要か、産業振興、観光、文化創造について、こういった視点で取り組んでいくことが必要か。あるいは、重点的に取り組むべき施策・事業は何だと思いませんか、という設問があります。

いずれも、この取り組み状況というところで事例を挙げさせていただいておりますので、こういったものを参考にお答えいただければと思います。特に、次世代でいうと、次の基本目標3。ページが振ってなくてごめんなさい。基本目標2の裏です。基本目標3、子育てしやすいまちとして選ばれる都市をつくるということで、この目標では、分野としては、子育て支援、若者支援、男女共同参画というものを挙げさせていただいております。区の取り組み状況については、区では現在、待機児童解消のために積極的な保育設備の整備を進めるとともに、多様化する保育ニーズに対応するために、延長保育や休日保育などのサービスの充実に取り組んでいます。また、一時保育や預かり保育など、在宅子育て家庭の支援にも取り組んでおります。子どもが安心できる居場所づくりとしては、児童館や学童クラブ、放課

後子どもひろばを展開しています。さらに、子ども総合センター、子ども家庭支援センターを中心に、子育ての悩みや不安の相談・支援体制を充実させるとともに、子育て支援のネットワークづくりを進めています。学校教育の充実としては、子どもたちの豊かな心と健やかな体づくりを推進するとともに、いじめや不登校等の防止、特別支援教育の推進など、子ども一人一人にきめ細かく丁寧に取り組んでいきますということで、まず、子育て支援については、どのような視点が必要か。あるいは重点的に取り組む事業は何か。右にいきまして、同じように若者、男女共同参画についても同じようにどういった視点が必要か、重点的に取り組むべき施策は何かということでお聞きしております。これが最後の基本目標5まで、安全安心のところまで続いております。

最後のところに、こちらの総合戦略の基本目標、施策、事業の全般的な事項について御意見がございましたら、自由にお書きくださいということで、欄を設けてございますので、よろしく願いいたします。それからもし、書き切れない場合は、別紙に書いていただいても結構ですので、ぜひ御意見のほう、よろしく願いいたします。

先ほどから繰り返しになりますけれども、7月31日まで、同封の封筒にて御回答をいただきたいと思っております。それから、表のページに四角のところまで4番、お問い合わせ先、送付先とありますけれども、新宿区総合施策部企画政策課、担当、土谷となりますので、よろしく願いいたします。また、わからないことがありましたら、あるいは、もし団体さんのほうで説明してほしいという趣旨がございましたら、御連絡いただければ説明にあがりますので、よろしく願いいたします。

お時間が少しばかりあるそうですので、少し新宿区の現状を説明させていただきたいと思っております。

参考資料7、そちらをごらんください。さっき人口ビジョンのところ、実は新宿区、シンクタンクを持っているんですよというお話を申し上げました。そこで調査研究している成果について、御報告をさせていただきたいと思っております。

人口世帯から見る新宿区の特徴ということで、これは新宿区自治創造研究所というシンクタンクがございまして、こちらのレポートを中心に抜粋させていただいたものでございます。これは27年、今年度の人口ピラミッドを見ますと、大体、今現在はこういうふうになっているんです。20代世代から30代世代が一番多いという現況にございます。そしてその下のほうです。新宿区の将来人口推計。これは、国勢調査をもとに推計したものですけれども、これを見ますと、右のほうへいくと青い点線、赤い点線、緑の点線があります。青い点線四

角、赤い点線三角、緑の点線、丸です。これを見ますと、我々大体、上から高位推計、中位推計、ちょっと甘口の推計、大体中ぐらいの推計、それから辛い推計、低位推計です。高位、中位、低位と言っていますけれども、大体我々は中位の推計と見ます。そうすると、大体2030年ごろまでには何とか上昇してピークで37万3,272とありますけれども、ここまでは何とか新宿区の人口はふえていくんじゃないかという推計が出されています。ただ、その裏のページ、ごらんいただきますと、ふえていくからいいんじゃないかと喜んでいるばかりではなくて、やはりこれは生産労働人口と言われる15歳から64歳と、65歳以上の高齢化率をはかるための人口を見てみますと、上のほうの実数になっています。下のほうが割合になっていますけれども、やはり高齢化率がどんどん上がっていくという状況にあるんです。それから、その次のページ、上のほうです。地域別の将来人口の増減。これ、わかりにくいんですが、2010年から2035年推計です。総人口推計で見ると、人口増減、赤いところがどんどんふえていく。だんだん色が薄くなるにつれて、そんなに増加率が上がっていかない。こんな状況になっています。

それから、外国人につきましては、これは皆さんご存じのように、新宿区かなり多いです。どんどんふえているという状況でございまして、その次のページ、裏のページ、右のほうに7、8とありますけれども、地域別に見ますとやはり大久保地域、断トツとして外国人登録高いです。ただ、下の国籍でいうと、やはり中国、韓国または朝鮮、ベトナム、ネパール、ミャンマーという順になっています。

一方で、ちょっと話は変わりますけれども、人口移動と少子化ということで、人口増加というのは自然増加、出生から死亡を引いたものと、社会増加、転入から新宿区に入ってくる人、それから転出、新宿から出て行く人を引いたもの、これを合わせたものなんです。そして、下のほうを見ると、新宿区の社会増加と自然増加ということで、実は新宿区は自然増加よりも社会増加、特に転入超過で人口がふえているということが言えるんです。ここを見ると、2011年に下がっちゃって、自然増加も社会増加も下がっていますけれども、これは東日本大震災で特に外国人の方なんか帰国しちゃったり、東京から出て行っちゃったということで、マイナスになってしまっている。増加が減ってしまっているということです。

それから、次のページいきまして、上のほう、特別区の転入率と転出率を見ますと、水色とオレンジの棒グラフありますけれども、水色、転入率のほうで見たものなんですけど、やはり、新宿区はかなり高くなっています。特別区というのが赤で囲っていますけれども、23区の平均よりもかなり高い位置にあります。千代田、中央、渋谷、港、新宿という順で転入率

が高くなっています。それから下のほうを見ると、新宿区の各歳別転入率・転出率の割合で見ると、上が転入率、各年齢ごとの、水色の棒グラフが転入率。それから、下のマイナスになっているのは、各年齢ごとの転出率。見ると、18歳の転入率と、大体24歳ぐらいの転入率が多いんですが、これは大学進学ですとか就職で転入してくる割合が多いということで、いずれも転入超過ということになっているんです。出て行く人よりも入ってくる人が多いというような状況になっています。こういった要因で新宿区の人口もふえていっている。入ってくる人でどんどんふえていっているということが言えます。

それから、次のページにいて、現住者の新宿区内の居住期間ですが、これは、若い人たちはほとんど1年未満ですとか、1年から3年と短い、年をお召しになっていくにしたがって居住期間が長くなっていく、こういった状況にあります。

それから、新宿区民の転入元地域と転出先地域は、やはり転入元、転出先いずれにしても、東京都23区内で動いているという状況になっております。引っ越し先もそうですし、引っ越してくるもとも23区内です。特に、次のページごらんいただきますと、グラフが2つ並んでいますけれども、左側が新宿区民の転入元、どこから来たか、それから右側が新宿区からの転出先、どこに行くかということなんですけれども、いずれも転入元も中野、豊島、杉並、世田谷、練馬。それから出て行く先も中野、豊島、杉並、練馬、世田谷と、同じようなところでぐるぐる、仕事だとか学校の関係でしようが、そういったところで、あるいは交通の便がいいところ、交通の関係機関だと思われまますけれども、近場で転出・転入を繰り返しているというところなんです。

それから、その次のページいきまして、17ページになります。合計特殊出生率、これは女性が一生につき、1人の女性がどれだけお子さんを生むかという割合なんですけれども、これ2005年なんですけど、全国平均1.26が、今、2013年は、1.43です。それから、特別区23区が1.16。一方、新宿区は0.96と非常に低くなっています。こういった状況になっています。

それから、次のページめくっていただきまして、下に19、20とあります。4番の単身化と未婚化。これランキングで見ますと、一番左の単身世帯割合、1番の東京都青ヶ島村。これは島です。その次、2番目。単身化率は62.6%と多くなっています。それから、高齢単身者割合も1位から5位までは全部島です。それを除くと新宿区も1位ということになってしまいます。それから、未婚率も、これも15歳以上の方なんですけれども、男性も女性も1位、未婚率も高くなっている。下のほうにいて、単身世帯の推計も、これ全国との比較ですけれども、やはり新宿区かなり高くなって、今後もどんどんふえていく。

それから、次のページにあって、21番上のほうになりますけれども、生涯未婚率の推移と全国推計。これも新宿区は、男性でいうと青い丸のところですが、2010年で33.3%、どんどん上がっていく。それから赤が女性なんですけれども、27.3%で、これもどんどん上がっていています。かなり、いずれも全国を上回ってしまっているというところですよ。

それから、最後の裏のページにいまして、これは単身世帯の方に、新宿の暮らしやすさを聞いたんです。これは、上から壮年前期35から49歳、緑色のところが壮年後期50歳から64歳、茶色のところが高齢期65歳以上ということで、やはり35、49も働き盛りの方は、当然、電車、バス、交通の便がいい、これはいずれも共通していますし、あるいはスーパー、コンビニ、買い物が便利にも共通していますし、やっぱり勤め先が近いとか、あるいは百貨店、買い物がいいとかというものが挙げられています。あと、壮年前期の方は飲食店・娯楽店設備が多いということですが、だんだん年をとるにつれて、交通の便や買い物、勤め先なんかも便利だというのがあるとはありますが、医療機関が多いというところが挙げられています。それから、高齢期の方では、他人から干渉がない、少ないというものが挙げられているというところがございます。

最後に、この単身世帯の意識調査ということで、結婚の意向なんですけれども、最近マスコミでも新聞でも発表されましたけれども、独身男性、女性も含めて、結婚の意向がかなり低くなっているということなんです。新宿区の単身者の場合、どうかなということなんです。これは男性、女性とも見てみますと、上が男性です。35から39の場合は44.7%結婚したい、あるいは38.3%できれば結婚したい。これは徐々に減ってくるんですが、特に特徴的なのは、45過ぎると結婚したいという願望が、がくっと減ってしまうというところなんです。ただ、女性の場合は、だんだんストレートに年齢を経るにつれて、結婚願望というか希望が少なくなっていくというようなことがございます。今後、新宿区の場合、今までは、傾向としては、若いときに新宿に来て、だんだん就職とか、年をとるにつれて、地方に戻ったり、いろんなところに引っ越していったという傾向だったんですが、現時点では、そのまま、やはりいろんな便利な点が多いんでしょうか、新宿にお住まいになられて、そのまま単身高齢化になってしまうというケースがこれからますますふえてくるということもございます。そういったことに対しても、この次世代を担う子どもたちがどうやって対処していくかということもございますので、ぜひそういった視点からも御意見をいただければと思います。

長々説明いたしましたけれども、私のほうからの説明は以上です。ありがとうございました。

○吉住会長

説明ありがとうございました。

多少、ショッキングな話もございましたが、ただいま説明のございました、新宿区総合戦略の策定に係る意見につきまして、委員の皆様の御意見、御質問を伺いたいと思います。御意見や、御質問のある方、どうか挙手をお願いいたします。

委員、お願いします。

○委員

お世話さまです。

今、全体的な話を聞いていて、一番感じているのが、その具体的な数字の中にもあらわれてはいますが、日本全体でエネルギーが足りないというか、その人のエネルギーとかモチベーションみたいなものがものすごく下がっているというのが、もともとの原因かなというのが、ふだん活動していて思われるところです。子どもたち自身の中では、輝いていたものが、だんだん中学生、高校生になっていくと、面倒くさいという言葉が、今、この辺でも出ていたんですけども、面倒くさいという言葉が、本当に頻繁に出てくるんですね。大学生になって、四谷ひろばでアルバイトで、少し頑張ってみないかということで働いてもらっていても、朝寝坊してしまったら、謝るのが面倒くさいのでそのまま音信不通になるんです。電話をしても出ない、お昼になっても連絡とれない。もうそのまま、今までこんなに楽しいことをしていたのに、どうしてこのことだけがきっかけで来なくなっちゃうのかなというぐらい、今やっと3年かけて更生しましたけれども、本当に面倒くさいというところが原点で、アルバイト先にも無断欠勤になり、そのままやめて引きこもっているというのが、結構、周りにも多かたりするんですね。自分の娘がことし就職をして2年目ですが、以前、やっぱり面倒くさいという部分で勉強しなかったことが、すごくあったことがあって、中学のうちに離脱できたので救われましたけれども、この世の中全体が、大人も子どもも、みんなが面倒くさいというエネルギーの中に、負のエネルギーであるというのがものすごくふだん感じているところです。

今、新宿区さんのほうで、箱物とかシステムとかものすごく頑張ってくださいっていて、すごく楽な世の中になってきているような気がするというのは、前から話をしているんですが、楽になってくると、今度は、さらにもっといいことをしてほしいという要望が出てきて、本当にどうなっていくんだろうと思うぐらい、負の連鎖が続いていくんじゃないかなということが、ふだん気になっているところです。便利になるイコール、コミュニティーが減ってい

るというのも現状にあると思います。預かり保育にしても、今までもう少し苦勞していた部分が預かりが楽にできる。これもすごく大切なことなんですけれども、違うものを減らしてその大切なものを減らしているんじゃないかというのが、コミュニティーが減り、本当にエネルギーが少なくなる1番の要因なのかな。そこへ便利な世の中になり、コンビニができて、それからスマートフォンがあって、ゲームにいそしむ大人も多いので、結婚する暇もないのかなと思うぐらい、そういう時間、自分の大好きな時間に充てていくというエネルギーはどんどん湧いていくんですけども、なかなかそういう、人のためにとかということのエネルギーは本当になくなってきているのかな。

お金だけじゃないという部分での未婚率、先ほどの結婚できない、結婚しないという話がありましたけれども、お金がないとか就職するところがないというだけじゃなくて、この面倒くさいから発生するものと、それから親の中で、ある大学生が「うちの子はもう就職は無理よ。うちの子には」と言って、アルバイトすらなかなか支援できない親御さんがいて、ビル持ちなんです。不動産があるから働かなくても大丈夫というのが親御さんの意見だったみたいなんですけれども、でも、その不動産はいずれ遺産相続でなくなっていくものなので、結婚するためにはその土地だけではないものが必要なんだと思うんですけれども、そういう生き抜いていく力みたいなものを親御さんは余り危機管理していなくて、40、50になって自分が60、70になったときに、初めてうちの子が結婚できないということに悩んで、手おくれになるということが多いんじゃないかなと思っています。

先ほど転入、転出の話がありましたけれども、結局、パイの分配で、取り合いみたいな形になっているのが現状なのかなというふうに感じましたけれども、新宿区さんの場合は、保育園がふえていき、また医療費とかも高校入るまで面倒を見るというところでは、ある人は高校出たら住みやすいところに引っ越すというところで、引っ越すというタイミングを持っているという人が結構多かったので、やっぱり地についていないというか、地元でない人たちというのが、マンション暮らしの人は簡単にマンションは捨てられるので、横に移動して、よりよい立地条件のところへ移動していってしまうというところでの転入、転出の分があるのかなというのも、先ほどのお話の中では感じました。

やっぱり、こういう集まりの中で、箱物、システム、全体的な流れみたいなのは新宿区さんが率先してやっていただく部分なんですけど、実際、こういう今の面倒くさいとかエネルギーを育てる力というのは、学校だったり、幼稚園だったりするものと、ほかは、ここにいらっしゃる皆様方、いろいろな思いで、モチベーション高く頑張っているエネルギー

のある方が、そのエネルギーを少しほかの方に与えていかれるようなことにつなげられるようなことができるといいのになと思っています。

いつもこの会議で思っているのは、出席するとそれで解散してしまうんですけども、ほかの方と交流するにも、最後の1人と名刺交換すると、ほかの人が帰っていったりするので、なかなか資料とかお渡しするとかというのも難しいので、交流ができる時間があると、こういうソフトな話し合いのことについても、共同でいろいろなことができるという発展性が出てくるのかなと思うので、いつももったいないなと思って参加させていただいています。

すみません。長くなりました。

○吉住会長

ありがとうございます。多岐にわたって御意見いただきました。自由意見の時間もございますので、その中でまた御意見もいただければありがたいと思いますが、せっかくいろんな分野の皆さんにお集まりいただいていますので、交流できるような場をつくるべきという御意見を今、いただきました。この会議体のあり方ですとか、進行の仕方等々についても、また御意見もいただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、交流の持ち方ですとか、その辺につきましては、また検討させていただければありがたいと思いますけれども、事務局のほうから何か考えは特にございますか。

○事務局

きょうはたまたま区長が、会長が11時半に退座しますけれども、この会議室12時まで使えますので、三々五々、名刺交換とか、情報交換していただける場になればいいなと思っています。これからは、会議の設定については、考えられる工夫はしていきたいと思っていますので。

○吉住会長

ありがとうございます。そのほか何か、御意見、御質問等ございますでしょうか。

6 意見・情報交換

○吉住会長

そうしましたら、引き続き、意見交換、情報交換の時間となっていますので、自由意見をそれぞれ述べていただければありがたいと思います。

それでは、御意見や御質問ございましたらお願いいたします。

副会長、お願いします。

○福富副会長

先ほど御説明の中で、1点わからないというか、新宿区あるいは東京都、この場合は新宿区の会議なんですけれども、新宿区も地方だということをおっしゃったんですけれども、そもそも、このまち・ひと・しごと創生というのは、地方の活性化というものの大きな問題があるんだろうと思うんです。

そういう中で、新宿区も地方だというようなことを私はどうも、そのあたりがどう考えていいのか。もう少し御説明いただけるとありがたい。つまり新宿がかなり活性化していくと、ますます地方は疲弊化するということにもなりかねないわけです。そのあたりをどう新宿のスタンスをとって考えたらいいんだろうかということ、もう少し御説明いただくとアンケートにも答えやすくなります。

○事務局

総合政策部企画政策課長です。

先ほども説明はいたしましたけれども、やはり東京というのは日本を牽引していくという位置づけであります。それから、その中でも、新宿というのが東京をリードしていく。そういった東京、新宿が、1つは出生率の問題があります。もともとは東京一極集中是正というお話だったんですけれども、この問題は、東京も出生率を上げていかなくてはいけない。全体的に出生率を上げていかなくちゃいけない。そういったときの東京、あるいは新宿の役割は何かというものが1つあります。それからやはり、特に子育ての問題だとか、コミュニティーの問題、高齢者の問題、雇用の問題。そういったものは当然、東京、新宿としてもあるわけです。そういったものは、やはり取り上げていかなくちゃいけない。

そして、もう1つは、東京一極集中といっても、全体的に日本が上がっていかないと、底上げしていかないと、東京だけひとり勝ちということもいけない。そのためには、やはり地方と連携してともにやっけていかなくちゃいけない。新宿なんかでも伊那市と今、友好都市のほうを結んでいますので、いろんな交流をしています。お互いにこれからも交流しながらいろいろやっけていかなくちゃいけない。お互いにウイン・ウインの関係を築きながら、地方とともに東京も発展していく。お互いに、それぞれ新宿に出たものは地方にも分配していく。あるいは逆の場合もあると思います。

そういった意味で、東京も1つの地方として、こういった総合戦略をつくっていく。新宿区の役割は何かということ、これを明確にしながら、この総合戦略をつくっていきたいというふう考えています。

○吉住会長

ありがとうございます。これ非常に難しい話なんですけど、先ほど委員からいただいた、高校に入るまでは医療費無料であるとか、全国的に見ると、23区内では2つの区が高校生まで無料をやっている区があります。税制改正の中では、それが非常に問題視というか、ある種重視されていて、東京はそれだけぜいたくができるんだから、東京の財源は地方に回していってということで、地方税であった法人事業税、法人住民税といったものが、地方交付税の原資が足りないということで、国税化されてしまいました。

すると、その限られた財源の中で、この都市部においては、土地も少ない、土地代も高い、物価も高い、そういう中で、だけど全国と同じサービスをやらなくてはならない、そういう二律背反なことになってきます。

そうした中で、では東京という、人が暮らしているこのまちの中で、どうやったら、さらに発展がして人が集まるか。なおかつ子育てしやすくできるか。仕事がしやすくできるか。そういう観点から、東京のこの新宿のまちも1つの切り取った地方として発展をさせる、あるいは持続する、そういう工夫をしなきゃいけないというのが、恐らくこの新宿における総合戦略のあり方になると思います。やはり地方との連携もしなきゃいけないということで、今ちょうど、フルーツの高野さんで、友好提携を結んでいる伊那市のブルーベリーで非常に珍しいものがあるというので、新宿の高野さんをお願いして商品化してもらって、1か月間ぐらい今セールをやっています。新宿もそういう地方の都市と連携しながら、地方の物をこっちに持ってきてもらって商売してもらって、こちらの人もそのサービスを喜ぶ。そんなようなやりとりをしながらお互いに盛り上がっていくというのが、これから全国に、いろんなところに広げていこうというふうな工夫をしていきたいなと思います。

いろんな種があると思いますので、この調査票の中に、またそういった御提案もいただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

そのほか何か。委員、お願いします。

○委員

今、たくさん統計を物理的な視点から御説明いただきましたが、その中身をもうちょっと分析していかないといけないと思うんです。例えば、単身の方の中にニート、フリーター、早期離職者がどれだけの割合で含まれているのか、という実態を区のほうではつかんでいらっしゃるのかどうか、近々に実態調査をするのかどうかということなんです。なぜそういうことを申し上げますかということ、宇都宮市で130人のニートの実態調査をしたときに、自信がないとか、さっきの面倒くさい話につながるんですけど、1人でいたほうがいいのか不安だ

とか、ニートの方たちが実際に話している。なぜニートになったんですかと聞きますと、半分以上の方が小学校、中学校の不登校。心身ともに不健康と答えているんです。そうなりますと、高校・大学卒業した後の話ではなくて、もっとニートの芽は、既に幼稚園、小学校、中学校のあたりに出ているということも考えると、縦にも水平的にも総合的な取り組みが、地域ぐるみの取り組みが必要だと思うんです。そういう意味で、さっきおっしゃった、このいろんな分野からいらっしゃるメンバーがもっと交流をして、もっと実際に施策に支援できるようなことを編み出していく必要があるのかなと思うんです。区役所の方の御説明を受けた上で、それを動いていかないと意味がないのかなと思っております。

以上です。

○吉住会長

ありがとうございます。そうしましたら、では。

○委員

実態調査やっていらっしゃるかどうか。

○吉住会長

そうしたら、実態調査について、まずお願いします。

○事務局

企画政策課長です。先ほど御紹介しました単身世帯のほうは、特にこれからますますふえていくであろう高齢者の方のアンケート調査ですとか、意識調査なんかを中心にやっておりまして、これは研究所のほうで毎年テーマがございますので、今、御指摘のあったところまでは、まだなかなか進んでおりませんが、将来的にもし、そういったものも必要であれば、研究所のほうと相談して、やることも可能と思いますので、そこら辺は、また検討させていただきます。

○委員

ぜひ。ここ・から広場の方たちとも話し合ったんですけれども、学校教育が終わった後のしばらくの間、若年者雇用のところの支援がどこでやっていらっしゃるのか、どこで所管しているのかなとか、実態をつかんでいるのかなというような話が出まして、そのところをしっかりと、15歳から39歳の一番元気いっぱいの若者がしっかりと働いてもらって、住民税、所得税を払わないと、区税、あるいは全国の国力が落ちていくという問題を、国でも捉えていますので、やはり先駆的にでも新宿からそれをやらないと、元気出ないですよ。それを長年取り組んできましたので、ぜひ、皆さんと御一緒に進めたいと思っております。

以上です。

○吉住会長

ありがとうございました。

何名かの方が手を挙げていらっしゃいますので、順番で。委員、お願いいたします。

○委員

新宿区に転入することでお伺いしたいのですが、新宿区はファミリー世帯が転入してくる場合に、助成金、補助金のような形でサポートしているはずなんですね。今もされているかどうかはわからないんですけども、その要件と金額について知りたいのですが、教えてください。

○吉住会長

お願いします。

○事務局

実際、そういった補助金はやっているんですけども、今、資料を持ち合わせておりませんので、後ほどでよろしいですか。個別にお知らせするというところで。

○委員

はい。調査票に意見を書きたいので、ぜひ教えてください。

○事務局

後ほどまた御連絡させていただきます。

○吉住会長

大体のスキームとか都市計画部で承知しているところはありますか。

○事務局

都市計画部の住宅課というところで、そういった世帯の方、単身の方等に入居者の助成等を行っておりますけれども、要件等、細かいところはまた後で御連絡いたします。

○委員

お願いします。

○吉住会長

ありがとうございます。

それでは、委員、お願いします。

○委員

3つお話ししたいと思います。

まず、第1は、先ほど出ましたニート等の問題は福富先生と、以前のこの検討会のところで、若者のさまざまな課題は、実は乳幼児期も含めて、学童期からその芽が、明確にそのことの存在があるということは、検討会でも、そしてまた報告書にも示されていると思います。

つまり、私は今までいろいろ積み重ねているものを、これからの施策に十分に生かしていく姿勢というのが大事ではないかというふうに思います。先ほど、御発言があったことは、当然のことで、実態を明確にするのですが、今まで統計的にも恐らくかなりの分量の調査結果等が積み重ねられているというふうに思います。あのときにも、当事者の方々に、その場に行きまして、私ども委員が行きまして、そして実態を具体的にその方からお話をお聞きする。そのリアル感を持って、新たな施策のことについて考えるというのはとても大事ななどいうことを思い出しました。

それから2つ目は、いろいろな課題が先ほど示されましたが、去年までの子ども・子育て会議も含めた総合的な今のシステムをつくる、検討してきたというふうに思いますけれども、その際に、どれだけ制度をいろいろなものをつくり上げても、そのことを担う人の問題、今現在、日本全国、特に都市部では、器はできているけれども、保育士が不足している、こういう事態が起きているわけです。なぜ保育士が不足するかといたら、いろいろな要因はありますが、でも、確実に言えることは、処遇の問題、条件、整備が十分にできていない。したがって、すぐにやめる。こういった状態が続いているわけです。

そういう意味で、いろいろな施策とともに、それを担う、支える人のシステムといいですか、細やかないろいろな対応策を、やはりこれは継続して考えていかないと、ここに出ているさまざまな課題に対してしっかりと対応することができないだろうというふうに思います。

それから3つ目は、先ほど地方とのつながりということで、伊那のことが出ましたけれども、地方に行きますと、ああ、こういう環境で子どもが育ったら、先ほど委員がおっしゃいました意欲ですね。子どもにとって意欲というものが生まれるのは、やはり自然環境の中で、そして実体験を通して、さまざまな人とかかわりを通してという、当たり前のことなのですが、そのことが都市部ではなかなか実現しがたいというときに、産業のつながりももちろんですが、子どもが就学前、あるいは小学校以降も、地方の子どもと何か、あるいは地方に行って実体験ができるような、こんなこともぜひこれからの施策の中に取り入れていただけたらなというふうに思います。

以上です。

○吉住区長

ありがとうございました。

委員、お願いします。

あと、きょう公募で来られたお二人の皆様には、きょうの会議の感想なども含めて、最後、御発言いただきたいと思っていますので、そのつもりでいらっしゃってください。

○委員

直接、委員会というんじゃなく、私が経験してとてもいいことなのに、皆さんがなぜ取り組まないのかなというこの経験をお話させていただきます。実は、私、耐震を新宿区の助成金援助でやらせていただいたんです。ここの目標にも書いております。それで、7月5日の新宿区の区報に、耐震の問題で、どういう手順で、どういうふうに、どういう段取りというのが事細かく書いてありました。あれと同じようなことを、もっと以前からPRして、耐震ということをもっと皆さんが簡単に組み合わせたらいいのになということ、落合地区のまちづくりの中でもいろいろ発言させていただきました。

それで、今月、落合のまちづくりの原稿の中に、あれと同じことを原稿に載せて、うちの主人なんです、耐震の経験として載せたんです。それと同じことが新宿区の区報に載っていたんで、これで皆さんが耐震工事をするのに、こんなに簡単に、新宿区がこんな形でいいことをやってくれているんだということが、より多くの皆さんにわかって、耐震問題に取り組んでいったらいいのになと思って、私自身の意見です。

以上です。

○吉住会長

小野センター長、お願いします。

○事務局

先ほど来、ニートの課題のお話とか出ているんですけども、私ども子ども総合センターのほうは、ゼロ歳から18歳までの居場所であるとか、さまざまな課題を持ったお子さんに対する相談だとか、総合的にやっているところなんですけれども、小中学生までは、学校のほうと連携しながら十分できているところがあるんですけど、15歳以降18歳までのところで、本支援というのが非常にまだ弱いかなということを感じておりまして、そうしたところを今後どうしていくか、しっかり研究してまいりたいと思っております。

○吉住会長

委員、お願いします。

○委員

発達障害支援をしております。

先ほど来、若者のノートというお話が出ておりますけれども、やはり子どものうちから生きづらさを抱えている子どもたちがいるということで、そういう子たちへの支援ということで話題に、先ほど委員からも御説明がありました。新宿区は、先進的な試みという意味では、来年度から全ての学校に学びの教室というものが設置されます。それは生きづらさを抱えている発達障害を持つ子どもたちを、そこに取り出して支援していこうという考え方で、これが全ての小学校にできます。

また、もう1つ、これが新宿の教育の大転換ですけれども、この子たちをいかに取り込んで自分たちの仲間にしていくかということ、全ての在籍のクラスで教えていくということになります。つまり、そこで人とのかかわり方を、集団での解決の仕方を教えていくということになります。これは新宿区の教育の大転換になります。新宿教育委員会は、これにつきまして、今年度初めから説明会を催してくださっております。教育の大転換だということで、説明をされています。

この考え方、今までは、その問題のある子を取り出して、この子だけを教育すれば何とかなるだろうという考え方でした。ところが、それでは問題は解決しない。この子たちをいかに取り込んだ社会をつくっていくかということ、子どもたちに学ばせなければならないということです。それを、新宿区は先んじて始めることになりました。これは教育についての大転換、考え方の大きな変換でございます。これは教育委員会だけができるものでもなくて、先生方だけができるものでもなくて、これに対しては、もちろん保護者が協力していかなければならないと思います。そして、一番大きなのは、これに対する理解を地域の人たちが進めていただくということだと思っております。それで、私、申し上げたいのは、ここにお集まりの各分野でリーダー的な存在でいらっしゃる皆様が、このことをよく御理解をさせていただいて、そして、この子たちを生きづらさを抱える子どもたちを教育するのはもちろん、この子たちを取り込んでいかに社会をつくっていくかということ、新宿区の教育は教えているのだということ、しっかり理解していただいて、そして、普及させていただいたらいいかなと思っております。ぜひ、この計画を成功させていただきたいと思っております。

以上です。ありがとうございます。

○吉住会長

ありがとうございました。

これ、特別支援教育というものがあって、その学校が非常に足りない。学校をつくっても

教室がさらに足りなくなって、カーテンを引いて、1つの教室に2つのクラスを配置したりですとか、今度、新宿区内にもまた、大規模な特別支援学校を東京都のほうでつくりますけれども、今、非常に医学の発達とかいろんな分析ができるようになって、もしかしたら昔、自分のクラスでにぎやかな子がいたのは実はそうだったんだというのが、今はそれが診断がつく状態になっています。かなり私たちが育った時代と違う状況になっているという中で、今回こういう方向に進んでおりますので、これは、取り出すというよりは、理解しなきゃいけないという段階に入ってきたのかなという状況があるということをお話ししておきたいと思います。

時間が迫ってきましたので、本日初参加の方々に、感想や、もし御発言し漏らしたことがあったらお願いしたいと思います。

委員、お願いします。

○委員

まず1点は、この新宿区総合戦略についてお伺いしようと思っていたんですが、きょう配られたアンケートに答えて、その後どういうふうにフィードバックなどがあるのかとか、会議体は持たないということでしたけれども、ではどういった方たちが、どうやって決めていくのか、そして、きょう配られているような基本構想のような冊子になっていくのか、次世代育成計画などは、かなり数値目標など細かいところが入っていましたけれども、そういう細かいところまで踏み込んでいくのか、ちょっとイメージが湧かないと答えづらいなんて思いながら聞いていました。

同様に、この次世代の、今回、私が参加させていただく会議と、あと、子ども・子育て会議も並行してやられていますが、全て連動していくものだと思うんです。それぞれの会議でどんなことが議論になったかというようなことだけでも、議事録までは読めないまでも、お互いにフィードバックというか、何となくウオッチしながらやっていかないと、ちぐはぐになってしまうなという印象を持って聞いていました。そして、31年度までのこの計画のところで、この会議体の予定として、どういうふうに意見をしていくのかというのが、また教えていただければと思いました。

○吉住会長

そうしましたら、平井課長、お願いします。

○事務局

まず、この進め方なんですけれども、きょう御意見をお聞きいたしまして、7月31日まで、

アンケートのほういただきたいと思います。それをもとに、素案をつくりまして、一応、9月中に素案をつかって、10月から各10カ所の地域説明会ですとか、あるいはパブリック・コメント、これ約1カ月間ですけれども、それをやりまして、素案を提示しながら、また御意見をいただくということになります。さらに今回、こういった会議で意見を聞いた方々に対しては、また、この会議がちょうどタイミングよく開かれればいいんですけれども、開かれない場合は、その素案をお送りして、また御意見をいただく場面もつくっていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

それから、冊子といたしましては、この人口ビジョンと、総合戦略につきましては、一つ一つ基本目標の数値目標を掲げて、それがどのような形で実施されているかということの評価していくというものになっていますので、また、それも毎年毎年行うということになっていますので、こういった場面でそれを御提示できるかはわかりませんが、お示ししていきたいと考えています。

○吉住会長

お願いします。

○事務局

時間になると思うので、区長のほうは退場させていただきますけれども、引き続き時間の許す限り、お話は続けさせていただきますと思います。

今、御質問があった関連で言いますと、次世代の計画、今回は、計画ができたばかりですので、こういった形で計画そのものの議論は、今回はございませんけれども、これから進捗状況の報告をさせていただいて、これがこの程度進んでいる、そういう中で当然見えてくる課題、それから評価等も踏まえながら、もうちょっときちんとした資料も、わかりやすい資料もつくっていきながら、議論をしていきたいと思っておりますし、子ども・子育て会議のほうも、ようやく初めて先月立ち上げたところなんですけれども、そちらの進め方も暗中模索でこれから進めていこうというところです。具体的に保育園定員何人とか、あと、この保育園認可されましたとか、新しくこんなところができますという、比較的具体的な話が多いんですが、資料としては当然公開になるものですので、こちらのほうにもフィードバックしますし、逆にこちらの議論もそういった中に連携させていただきたいというふうに思っています。

○吉住会長

よろしいでしょうか。

それでは、引き続き委員、お願いします。

○委員

きょうはありがとうございます。

意見になってしまうんですけれども、私、子どもを出産して、周りのお友達ですとかを見ていると、やはり高齢出産の方が非常に多い。皆さん非常に苦労されて、要するに不妊治療など苦労されてお子さんをつくっているという現状をすごく目にしました。女性が学歴をつけて、しっかり実力もつけて、一生懸命働いてきた結果、何だかんだ時間がたってしまい、35歳ですとか40歳を迎え、そのときに初めてといいますか、子どもがもうつくりにくいといいますか、統計上、流産の確率も高くなってしまいますしというような年齢を迎えてしまうという方が非常に多くいらっしゃいます。それを見ていて思うことが、やはり性教育という点で、避妊に関する性教育というのは非常に受けてきているんですけれども、やはり妊娠の実態というようなことに関する知識が余り与えられてきていないというふうに思っております。ですので、例えば男性不妊に関しても、実は不妊治療をしている方の約半分に関しましては、男性側にも不妊の原因があるというふうに言われているんですけれども、男性に関しては、まさか自分に生殖能力がないというのをなかなか受け入れがたい状況であるようで、少しでもそのハードルを下げてくださいという意味で、まず知識を与えるということも大事ですし、もう1つ考え得ることとしましては、男性不妊の検査なんか結構高額なんです。数万円単位でかかってきます。ただでさえ受けたくない検査を、さらに数万円も払って受けるか、というところがございますので、やり方としては、区のほうで男性不妊の検査に対する助成のようなことを行っていただいて、少しでも男性に対するお尻をたたいていただく、というようなことをしていただくと少しでも変わるんじゃないかなというふうに思います。

もう1点目は、私今、子育て中で、いわゆるワーキングマザーですので、ふだん思っていることなんですけれども、ワーク・ライフ・バランスなんかと言われるんですけれども、一番難しいのは、子どもが病気をしたときです。どうしても一定程度の責任を持って仕事をしているつもりでございますので、急に休むというのは非常に難しい。皆さんも同じだと思うんですけれども、をやっております。新宿区なんかでは、アリエルさんという非常にいい病児保育の施設があるんですけれども、当日に使うというのは非常にハードルが高いですし、あと、子どもにとって、病気ですつらいときに、初めての場所に行って、そこに預けられるというのは苦痛になる子もいると思うんです。そんな中で使用しているのが、病児保育のフローレンスさんというNPO法人でやっていらっしゃる場所なんですけれども、利用してい

ます。こちらは当日に急にオーダーしても、病児専門のシッターさんがおうちに来てくださるんですけれども、知らない人ではありつつも、知っているおうちでやっていただけるということで、少しでも安心度は高い。ですが、非常に高額です。使わなくても月々、利用回数にもよるんですけれども、1人につき約1万円前後の月額、かかってきます。こちらに関してですけれども、今、文京区さんですとか、千代田区さん、それから足立区さんだったかな、なんかでも病児保育の助成金、助成を出しているというふうに伺っておりますので、こんなところも欲しい欲しいばかりで申しわけないんですけれども、検討していただければというふうに思っております。

以上です。ありがとうございました。

○吉住会長

ありがとうございます。それでは、答えがあるようでしたらお願いいたします。

では、私、ここで失礼してまいりますので、福富副会長に進行のほう、お願いいたします。申しわけございません。

○事務局

保育園子ども園課長でございます。ただいまの病児保育の御意見いただきまして、ありがとうございます。

そうした居宅の関係で、NPOのフローレンスが病児・病後児保育を実施していて、それに対する助成をしているというところも、私どもほかの区民の方からも御意見をいただいているところでございます。今現在、私どもとしましては、先ほど御紹介いただいたアリエル四谷、そして、病児・病後児保育の施設とか、あとは拠点ごとに、保育園の中でも病児・病後児保育をやっておりますので、まずはそうしたところでの利用のしやすさというところを、検討しているところでございます。今、委員からいただいた助成の関係については、今後、課の中でも検討はしていきたいと思っております。

ありがとうございます。

○福富副会長

ほかに。区長いらっしゃいませんけれども。

今回はまちづくりといいますか、まち・ひと・しごとということに関する説明ということですが、時間的に非常に多かったんですけれども、この会はあくまでも次世代育成ということで、内容的にはかなりニートの問題とか、子どもの出産に絡む問題とかいろいろな意見が出て、そういう意味では、非常によかったかと思っております。ありがとうございました。

この協議会は、今年度は、部会はないんですよ。

○事務局

今年度、これからどういうテーマを設定していくかということも、計画ができたばかりということと、子ども・子育て会議が別個にできたということも踏まえて、それも合わせて検討させていただきたいと思います。

○福富副会長

そういうことで、従来とは少し趣が違うかもしれませんが、できるだけ、全員こういう会の中で会を持って、その中で、先ほど田谷委員から出たような感じで、運営の中で交流もできるような雰囲気を進めていければいいのかなというふうに思っております。

7 事務連絡

○福富副会長

事務局のほうで最後に。

○事務局

本日の資料につきまして、御連絡でございます。次第に記載されております以外に、机上配付させていただいている資料が1点ございます。連続講座「思春期の子どもと向き合う」、こちら実施の御案内でございます。お持ち帰りいただきまして、お近くの方ですとか、お知り合いの方などに御周知いただければと思います。なお、部数の御希望がございましたら、事務局のほうへ御連絡くだされば御用意させていただきます。

事務局からは以上です。

8 閉会

○福富副会長

ほかには。

それでは、時間が少しオーバーいたしましたけれども、これをもちまして、本日の会議を終了したいと思います。

また、次回以降、よろしく御参集いただければと思います。

ありがとうございます。

午前11時43分閉会